



明治22年(1889年)に山形県鶴岡市にあった私立忠愛小学校でお弁当を持ってこられない貧しい家庭の子どもたちのために昼食を出したのが日本の学校給食のはじまりです。その後、戦争により一時中断されましたが、戦後、日本の子どもたちのためにユニセフから小麦粉や脱脂粉乳が寄贈され、昭和21年(1946年)12月24日に再び学校給食がはじまりました。この日は多くの学校が冬休みに重なるため、1ヶ月延ばして、1月24日を「給食記念日」、30日までの1週間を「全国学校給食週間」としています。

今年の全国学校給食週間の給食には、地場産物を使った料理や奈良県の郷土料理が登場します。学校給食についてあらためて考える機会にしてほしいと思います。

機会にしてほしいと思います。

学校給食の移り変わりを見てみよう!

<p>明治22年</p> <p>私立忠愛小学校で提供されたとされる給食。</p>	<p>戦後(昭和20~30年代)</p> <p>支援物資の脱脂粉乳や缶詰、小麦粉などを使った給食。</p>	<p>現在</p> <p>地域でとれる旬の食材を取り入れ、郷土料理や行事食、世界の料理など、食育の教材となる給食。</p>
--	---	---